

京都府保険医協会 FAX登録会員への緊急アンケート

OTC類似薬の保険外し、 OTC薬処方時の技術料の選定療養化について 結果

実施期間:2025年7月2日～7月18日

対象者数:送信件数1505件／回答者数198／回答率13.2%

公表日:2025年7月31日

【アンケートを実施した経緯】

医薬品の保険給付に係る制度について、以下の自民党・公明党・日本維新の会の三党協議での合意や、財務省・財政制度等審議会により、次の3つの見直しが検討されています。

- (1) OTC類似薬(保険薬)を保険給付から除外する。日本維新の会の提案では、具体的な薬剤名として28有効成分が挙げられました。
- (2) 保険診療とOTC薬(市販薬)の処方の組み合わせが混合診療にならないように、技術料(初・再診料や処方箋料)を選定療養として保険給付する。
- (3) 海外2か国以上でスイッチOTC化されている薬のうち、日本でスイッチOTC化されていない医療用医薬品約60成分を2026年までにOTC化する。検査薬のOTC化も進める。

これらの施策が導入されれば、保険給付の範囲が縮小されるとともに、プライマリケアを担う保険医の保険診療、経営にも大きな打撃になることは必至と考えられたため、京都府保険医協会の会員でFAX登録のある方にアンケートを実施しました。

【用語の説明】

- ※1 OTC → Over The Counter(店頭、小売り)の略
- ※2 OTC薬 → 市販薬。医師の処方箋がなくても薬局やドラッグストアなどで購入できる一般用医薬品
- ※3 OTC類似薬 → 保険薬。医療用医薬品。医師の診断を受けて処方される薬の中で、ドラッグストアなどで購入できるOTC薬にスイッチ(切り替え)された場合、元の保険適用の医療用医薬品が、そのように呼ばれている
- ※4 スイッチOTC化 → 医療用医薬品として長年使用されて、安全性や有効性が確立されたとされる成分を、OTC薬として販売できるようにすること

維新がOTC類似薬の保険外しを要求

『全国保険医新聞』二五年五月二五日号一面

財務省 選定療養で保険外し

4月17日に開かれた社会保障改革に関する自民党・公明党・日本維新の会の3党協議で、日本維新の会はOTC類似薬を保険給付から除外する具体的な薬剤名として28有効成分（薬剤費の合計は1543億円）を示した。

層に浸漬すると、タタから抽出させたものだ。

2. 在交厚分のリストナ
らは、漢方などの単味で
は、製合剤の一日最大

2. 有交厚分の減算を併
 減給付から外した場合、
 患者は台帳に必要書類を

剤で患者への影響は甚
大だ。

維新 1兆円の保
険給付外しを
高い市販薬購入で
患者負担大幅増
減を目指している。

り、大幅な患者負担増・受診抑制を招くとともに、自己判断での市販薬の服薬による重症化も懸念される。

日本維新の会は保険外とする医薬品として28有効成分をリストアップした(表)。これらの医薬品は猪瀬直樹参院議員(維新)が基準として「OTC類似薬のうち、OTC医薬品と成分・1日最大用量が同じ医療用医薬品」を示し、厚労省医薬

シウム(23.1億円)、アレルギー性疾患治療剤のフェキソフェナジン(20.3億円)など日常診療で広く処方されている薬

ン（咳止め）は除外されているが、今回示された基準に該当しないだけであり、日本維新の会はO・T・C類似薬の保険給付外を大きく上回る傾向にある。同一有効成分の市販薬なども助成対象外となる。同制度や国の難病公費医療なども助成対象外となる。

法として新たな遠定療養
化を提案。処方薬を保険
給付対象外とし全額自己
負担化するものだ。

表 日本維新の会が自公維3党協議(4月17日)に提出した保険外しリスト

有効成分名	医療用医薬品 販売名	OTC 医薬品 販売名
アシクロビル	ゾビラックス軟膏5%	アクチビア軟膏
アシタゼノラスト	ゼベリン点眼液0.1%	アレジフェンス
イソコナゾール	アデスタン錠300mg	メンソレタムフレディ CC1
	アデスタンクリーム1%	メンソレタムフレディ CC クリーム
イトブリド塩酸塩	ガナトン錠50mg	イラクナ
エビナスチン	アレジオン錠20	アレジオン20
オキシコナゾール	オキナゾール錠100mg	オキナゾール L 100
	オキナゾール錠600mg	オキナゾール L 600
カルボシステイン	ムコダイン錠500mg	ムコダイン去たん錠 Pro500
クロラムフェニコール	クロロマイセチン軟膏2%	クロロマイセチン軟膏2% A
ケトチフェン	ザジテンカプセル1mg	ジキナ鼻炎錠
	ザジテン点眼液0.05%	ジキナ AL 点眼薬
ピロキシカム	バキソ軟膏0.5%	ピロキシカム液「キョウウ」
フェキシフェナジン	アレグラ錠60mg	アレグラ FX
フェルピナク	フェルピナクテープ35mg「三笠」	エイクリヤーテープ F B 5% α 温感
フルチカゾンプロピオン酸エステル	フルナーゼ点鼻液50 μg 56噴霧用	フルナーゼ点鼻薬<季節性アレルギー専用>
プレドニゾン吉草酸エステル酢酸エステル	リドメックスコーワ軟膏0.3%	新リビメックスコーワ軟膏
ヘパリン類似物質	ヒルドイドクリーム0.3%	ピーソフテックリーム
ロキソプロフェン	ロキソニン錠60mg	ロキソニン S
ロラタジン	クラリチン錠10mg	クラリチン E X
酸化マグネシウム	マグミット錠330mg	3A アクアマグ
イブプロフェン	ブルフェン錠200	イブプロフェン錠200S
ベタメタゾン吉草酸エステル	ベトネバート軟膏0.12%	リンデロン Vs 軟膏
チンク油	チンク油「東海」	チンク油「昭和 J P
テルピナフィン塩酸塩	ラミシルクリーム1%	ラミシル A T クリーム
トコフェロール酢酸エステル	ユベラ錠50mg	ファイト E100 カプセル
トラニラスト	リザベ点眼液0.5%	ロートアルガードプレテクト
トリアムシノロンアセトニド	オルテクサー口腔用軟膏0.1%	オルテクサー口腔用軟膏
尿素	バスタロンクリーム20%	ケラチナミンコーワ20% 尿素配合クリーム
ビダラビン	アラセナー A 軟膏3%	アラセナ S
ペボタスチンベシル酸塩	タリオン錠10mg	タリオン A R

- ①「処方箋医薬品以外の医療用医薬品」と「ＯＴＣ医薬品」とで同一の成分であり、かつ、ＯＴＣ医薬品に単独で含有されている成分のうちの一部を抽出
②①の成分について、
・最低限度を適い考慮して、「処方箋医薬品以外の医療用医薬品」と「ＯＴＣ医薬品」の一日最大用量を同一成分のみを抽出。
・軟膏と経口薬など投与経路が異なるものは除外し、投与経路が同じで剤形が異なるものは除外しない。
(例：経口薬と湿布は区別するが、顆粒と錠剤は区別しない) など、一定の定価のものでも医薬品を特定
③①、②で特定した医薬品について、NDBオープンデータベースに薬剤費を計算
「薬剤費」÷「総計（処方数量）」とし、試算に当たっては「外來（院内）」及び「外來（院外）」のデータを合算

猪瀬直樹参院議員note(<https://note.com/inosenaoki/n/ncde0c2747fd3>)より

WGからの指摘①

海外2カ国以上でスイッチOTC化されており日本で未承認なもの(1)

合計58成分

薬効	成分名	英語名	海外スイ チ国総数	医療用製剤の再 審査結果公表	評価検討会 議での検討
A02 胃酸関連疾患用薬	オメプラゾール	Omeprazole	31	1999	2024
	エソメプラゾール	Esomeprazole	28	2022	2024
	ランソプラゾール	Lansoprazole	6	2017	2024
	ラベプラゾール	Rabeprazole	2	2009	2024
A03 機能的胃腸疾患用薬	ドンペリドン	Domperidone	9	1990	2019
	プロパンテリン	Propantheline	6	—	—
A05 胆汁、肝治療	メトクロプラミド	Metoclopramide	4	—	—
	ヒメクロモン	Hymecromone	7	—	—
A06 便秘薬	ラクツロース	Lactulose	32	—	—
	マクロゴール(ポリエチレングリコール3350)	Macrogol (Polyethylene glycol 3350)	28	—	—
	ラクチトール	Lactitol	18	2009	—
C01 心疾患治療	ニトログリセリン	Nitro-glycerine	7	—	—
D01 皮膚科用抗真菌薬	ケトコナゾール(外用)	Ketoconazole (topical)	38	2003	—
	フルコナゾール	Fluconazole	8	1998	—
	クロコナゾール	Croconazole	3	—	—
D05 抗酸薬	カルシポトリオール	Calcipotriol	3	2009	2018
D06 皮膚科用抗生物質・化 学療法薬	スルファジアジン銀(軟膏)	Silver sulphadiazine 1%	9	1989	—
	メトロニダゾール	Metronidazole	6	—	—
	ムピロシン(外用)	Mupirocin (topical)	5	2005	—
	ファムシクロビル	Famciclovir	4	2017	—

3

WGからの指摘①

海外2カ国以上でスイッチOTC化されており日本で未承認なもの(2)

薬効	成分名	英語名	海外スイ チ国総数	医療用製剤の再 審査結果公表	評価検討会 議での検討
D07 副腎皮質ステロイド、 皮膚科用製剤	クロベタゾン酪酸エステル (外用)	Clobetasone butyrate (topical)	6	1990	—
	アルクロメタゾン(外用)	Alclometasone (topical)	4	1995	—
D10 抗にきび製剤	ベンゾイル過酸化物質	Benzoyl peroxide	36	未公表	—
	エリスロマイシン(外用)	Erythromycin (topical)	5	2004	—
	アダパレン	Adapalene	3	2018	—
G03 性ホルモン、生殖系系 モジュレーター	レボノルゲストレル	Levonorgestrel	30	2016	2021
	エストリオール(錠用)	Estril (vaginal)	5	—	—
G04 泌尿器科用薬	シルデナフィル	Sildenafil	6	2010	—
	タダラフィル	Tadalafil	3	2017	—
	オキシブチニン	Oxybutynin	2	1998	—
J01 全身用抗菌薬	メテナミン(ヘキサミン)	Methenamine	11	—	—
M01 抗炎症・抗リウマチ 薬	ケトプロフェン	Ketoprofen	15	1992	—
	メフェナム酸	Mefenamic acid	5	—	—
	フルルビプロフェン(トロ チ)	Flurbiprofen (lozenges)	26	—	—
	シクロフェナク	Diclofenac	23	—	—
N01 麻酔薬	プロピトカイン	Prilocaine	17	2021	—
	オキシプロカイン	Oxybuprocaine	4	—	—

4

WGからの指摘①

海外2カ国以上でスイッチOTC化されており日本で未承認なもの(3)

薬効	成分名	英語名	海外スイ チ国総数	医療用製剤の再 審査結果公表	評価検討会 議での検討
N02 鎮痛薬	スマトリプタン	Sumatriptan	7	2012	2017
	ゾルミトリプタン	Zolmitriptan	5	2011	2017
	リザトリプタン	Rizatriptan	3	2013	2017
	ナラトリプタン	Naratriptan	2	2017	2017
N05 精神抑制薬	プロクロルペラジン	Prochlorperazine	4	—	—
P02 駆虫薬	ピランテル	Pyrantel	16	—	2022
分類対象外	メベンダゾール	Mebendazole	13	1999	—
	ストロンチウム塩化物塩 (toothpaste)	Strontium chloride (toothpaste)	9	—	—
R01 鼻用製剤	レボカバステチン	Levocabastine	18	2009	2018
	イプラトロピウム臭化物	Ipratropium bromide	15	1988	—
	トラマゾリン	Tramazoline	15	—	—
	ブデソニド(点鼻)	Budesonide (nasal)	10	2014	—
	モメタゾン(点鼻)	Mometasone (nasal)	10	2018	2023
R03 閉塞性気道障害用薬	サルブタモール	Salbutamol	4	—	—
R05 咳、感冒用製剤	アセチルシステイン	Acetylcysteine	31	—	—
	ベンプロペリン	Benproperine	3	—	—
R06 全身用抗ヒスタミン薬	デスロラタジン	Desloratadine	28	未公表	—
	レボセチリジン	Levocetirizine	13	2020	2022
	シプロヘプタジン	Cyproheptadine	10	—	—
	ビラスチン	Bilastine	4	未公表	—
	オキサトミド	Oxatomide	2	1994	—

5

海外2カ国以上でスイッチOTC承認された成分(例)

日本でOTC承認があるものと未承認のものとの比較

青字: 日本でOTC承認あり
赤字: 日本でスイッチ承認

胃腸関連疾患用薬 スクラルファート ファモチジン ニザチジン オメプラゾール エソメプラゾール ランソプラゾール ラベプラゾール	鎮痛薬 ジヒドロコデイン パラセタモール+ジヒドロコ デイン スマトリプタン ゾルミトリプタン リザトリプタン ナラトリプタン	全身用抗ヒスタミン薬 クレマスタチン メクロジン エメスタチン エピナスタチン フェキソフェナジン エバスタチン ロラタジン ケトチフェン シフェニドラミン クロルフェニラミン トリプロロジン プロメタジン トリベレンナミン ジフェニルヒラリン カルピノキサン デスロラタジン レボセチリジン シプロヘプタジン ビラスチン オキサトミド	咳、感冒用製剤 プロムヘキシ カルボシステイン アンブロキソール デキストロメトラン グアイフェネシン コデイン アセチルシステイン ベンプロペリン	抗にきび薬 イソプロピルメチルフェノール レゾルシン エリスロマイシン(外用) アダパレン 過酸化ベンゾイル*	駆虫薬 ビルビニウムパモ酸塩 ピランテル メベンダゾール	便秘薬 マグネシウム塩化物塩 ラクツロース マクロゴール ラクチトール	閉塞性気道障害用薬 デオフィリン サルブタモール	性ホルモン等 レボノルゲストレル エストリオール(錠用) 関節・筋肉痛用局所製剤 ビロキシカム(外用) フェルビナク(外用)
鼻用製剤 ブリドエフェドリン フェニレフリン ナファゾリン フルチカゾン フルニソリド(点鼻) レボカバステチン イプラトロピウム臭化物 トラマゾリン ブデソニド(点鼻) モメタゾン(点鼻)	機能的胃腸疾患用薬 プラチスコプラミン臭化物塩 シメチコン スコプラミン ジサイクロミン ドンペリドン プロパンテリン メトクロプラミド	副腎皮質ステロイド皮膚科用製剤 ヒドロコルチゾン(外用) プレドニゾン クロベタゾン酪酸エステル(外用) アルクロメタゾン(外用)	皮膚科用抗生物質等 アンクロビル(外用) リソチム塩酸塩 ネオマイシン塩酸塩 クロルテトラサイクリン(外用) テトラサイクリン スルファジアジン銀(軟膏) メトロニダゾール ムピロシン(外用) ファムシクロビル					
泌尿器科用薬 フラボキセート塩酸塩 シルデナフィル タダラフィル オキシブチニン	抗炎症・抗リウマチ薬 インドメタシン ナプロキセン フルルビプロフェン(HI-F) シクロフェナク ケトプロフェン メフェナム酸							

出典: AESGP <https://otc.aesgp.eu/#by-parameter>

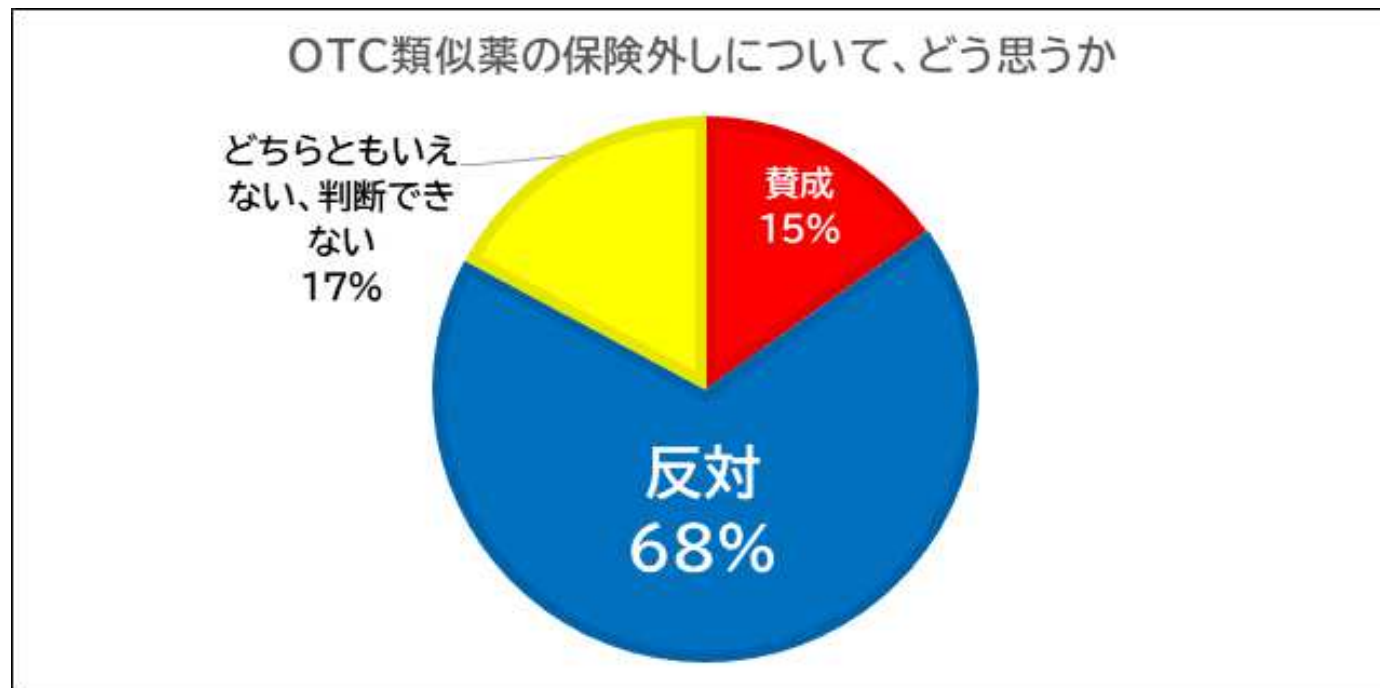
* 医療用製剤の再審査報告が未公表の成分

(注) 同一薬効群で既にスイッチOTC化されているものがある場合等、スイッチ化のニーズが必ずしも高くない場合もあり、そもそも企業がスイッチ化の開発申請を行わない場合もあることに留意が必要。

5

【アンケート結果の概要】

1. 自民党・公明党・日本維新の会の三党協議で、日本維新の会はOTC類似薬（保険薬）を保険給付から除外する具体的な薬剤名として28の有効成分を示しました。6月6日にはOTC類似薬の保険給付のあり方の見直しについて三党合意も交わしています。OTC類似薬の保険外しについて、どう思うか質問したところ、「反対」が67.7%でした。



※今回のアンケートの特徴は自由意見が多いことです。

【「反対」の理由(抜粋)】

- ・的確な薬を選ぶか疑問、患者さんの負担金額が増える、総医療費も増える。
- ・健康格差や医療格差を拡大させる。
- ・国民皆保険の優れた仕組みは死守すべき。保険縮小はありえない。
- ・他の薬との兼ね合いも考慮しているが、市販薬まで把握は現在でも困難。患者負担増で受診も遠のく。
- ・大病が隠れてる可能性があるため。
- ・軽症とっていて重症の初期症状の時もあり得るから。
- ・風邪という診断も、重篤な疾病を鑑別診断した後の結果であり、最初からセルフメディケーションできる病状の診療をしているわけではない。
- ・アレルギー、消炎解熱鎮痛薬など、治療に必要な薬が保険外になり、患者負担も増大し、なんの為の皆保険かわからなくなる。薬がもらえないなら、薬局でいいということになり、受診控えが増え、勝手に鎮痛薬だけ飲んで病状が悪化する恐れがある。
- ・過疎地域にはOTC薬を売る商業薬局がないので買えない。

【「賛成」の理由(抜粋)】

- ・医療費削減のため。

2. 25年5月27日、財務省・財政制度等審議会は「春の建議」の中で、保険医がOTC薬(市販薬)を処方した際の技術料の選定療養化の検討を進めるべきと主張しました(保険診療で市販薬の処方箋を発行することは、現状では混合診療となり、できないため)。

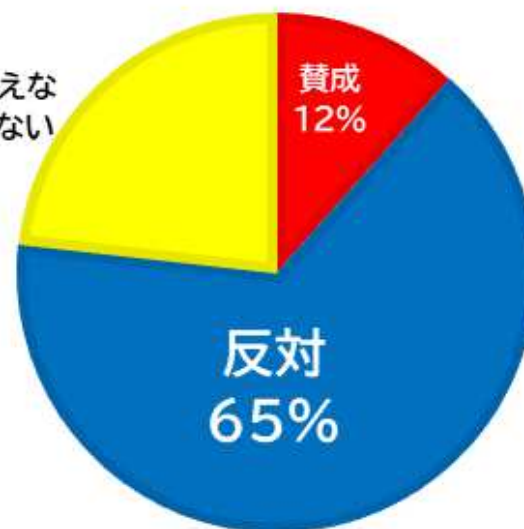
このように選定療養の拡大により保険給付が縮小されることについて、どう思うか質問したところ、「反対」が65.2%でした。

【財務省案】

OTC類似薬	技術料等	案：保険外併用療養費制度の活用
全額自己負担	保険外併用療養費	■ 保険外併用療養費制度を活用し、例えば「新たな選定療養」と位置付けられ、OTC類似薬についてのみ切り出されて自己負担となる。
	3割自己負担	

OTC薬(市販薬)を処方した際の技術料の選定療養化など、選定療養の拡大により保険給付が縮小されることについて、どう思うか

どちらともいえない、判断できない
23%



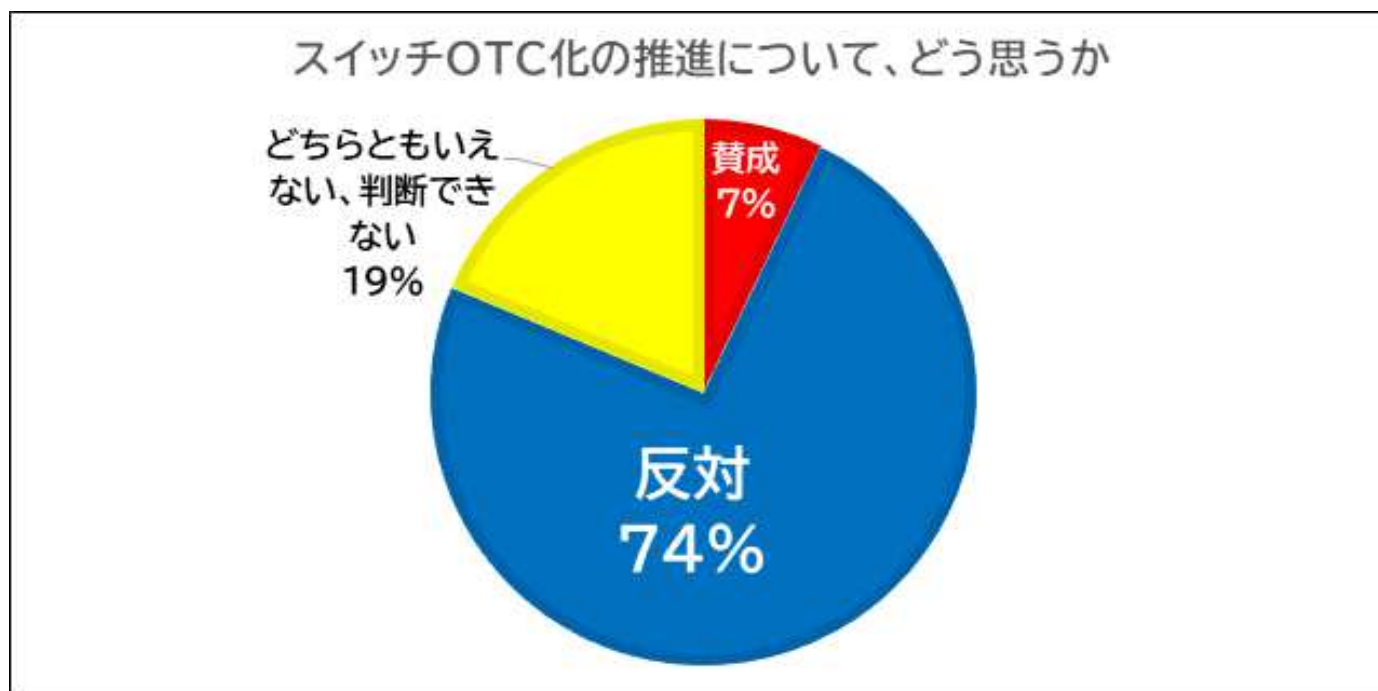
【「反対」の理由(抜粋)】

- ・保険適用と適用外との区別自体が煩雑であり、日々の業務に相当な支障を来すと思われるから。
- ・これ以上の患者負担増は許容できない。
- ・保険給付縮小は、国民皆保険制度崩壊の呼び水になりかねない。
- ・国民皆保険の原則を破るものだから。
- ・混合診療への道を開く。なりふり構わない社会保障費削減政策に反対。
- ・保険請求がややこしくなる一方であり、医療費抑制の解決にしても根本的な方策にならないと思う。
- ・混合診療がさらに拡大する。
- ・近くに薬局のない当地の住民にとって致命的なことになる。
- ・購入すべき薬剤を患者がきちんと購入できるのかわからない。何らかの情報を薬局と共有できるようにする必要がある、そのための費用がかかるため保険給付があってしかるべき。

【「賛成」の理由(抜粋)】

- ・保険を成り立たせるためには仕方ない。
- ・医療費削減のためにやむなし。些細なことでの受診は不要。

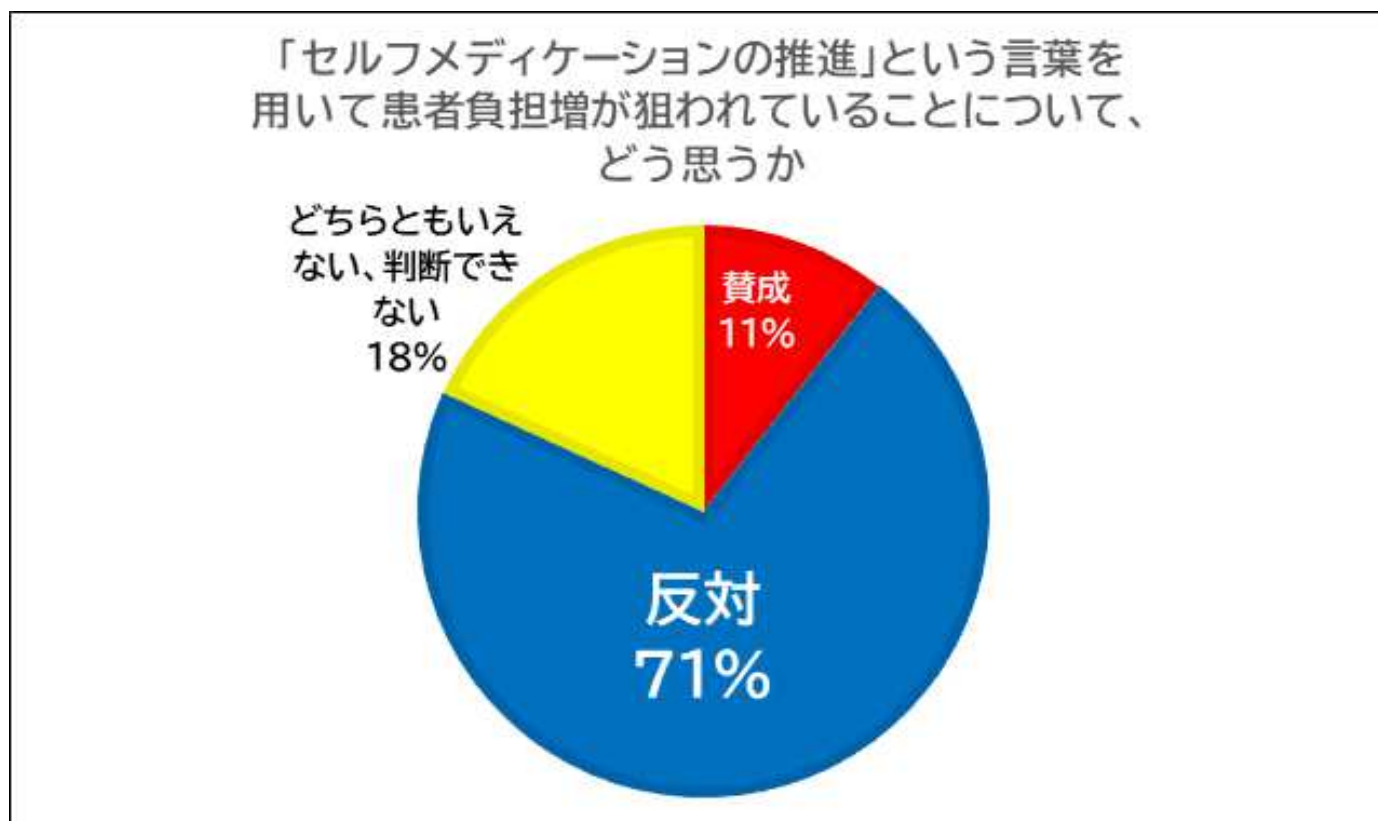
3. 財務省・財政制度等審議会の「春の建議」では「症状が長期に安定している生活習慣病患者の医薬品(降圧剤等)・検査薬(編注:抗原検査キット等が想定)のスイッチOTC(市販薬)化を進める」ことを主張しています。三党合意でも医療用医薬品約60成分を26年までにOTC化する「取組を着実に進める」としています。スイッチOTC化の推進について、どう思うか質問したところ、「反対」が74.2%でした。



【「反対」の理由(抜粋)】

- ・合併症に気付くのが遅れる可能性がある。
- ・減量や休薬の機会を奪う。
- ・薬を服用中は医師による定期的なチェックが必要だから。
- ・管理は誰がするのでしょうか？
- ・生活保護受給者や低所得者の医療費の負担が相当増大するため。
- ・生活習慣病は自己管理することが困難である患者も多い。
- ・薬副作用、検査結果に対しての責任の所在が鮮明でない。
- ・高血圧、脂質代謝異常、糖尿病のスイッチOTC化を進めたら将来重症化患者数が必ず増え医療費がまた高くなることが目にみえる。
- ・治療をやめる人が増加するかもしれないから。
- ・生活習慣病は自覚症状がなく、自費だとおそらく購入しない人が多くなり、その結果脳卒中、心筋梗塞などが増え、医療費は増加すると思う。
- ・薬の副作用を誰が見るのか？
- ・他の重大な疾患の引き金となる場合もある生活習慣病において、症状の長期安定そのものが何によってなされているのかに対する医学的考察がなされないまま、単純に医師の管理下から外すと、悪化を見落とし重大な結果を招くことにも繋がる。そもそも長期安定とはどのラインで定めるのかにも疑問は残り、極めて難しいと考える。季節や体調によっても症状は変化し、薬剂量を変化させなければならない場合も多い。

4.「OTC類似薬の保険外し」及び「スイッチOTC化の推進」の方針は「骨太の方針2025」にも盛り込まれ、正式な政府方針になりました。厚労省は保険薬の3割負担額とOTC薬(市販薬)を購入する場合を比べると負担額が10倍近くに増えるケースもあるとの試算を示しており、トータルとしての患者負担は増大する可能性が高いです。「セルフメディケーションの推進」という言葉を用いて患者負担増が狙われていることについて、どう思うか質問したところ、「反対」が71.2%でした。



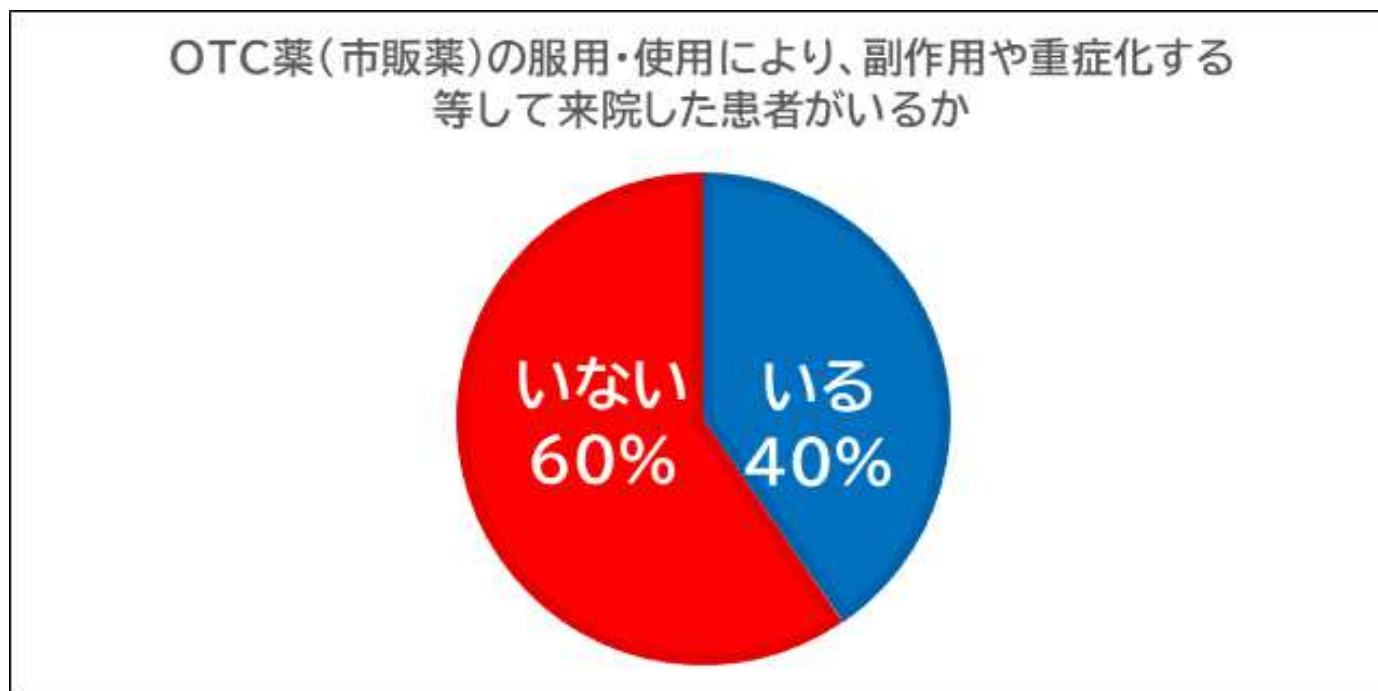
【「反対」の理由(抜粋)】

- ・セルフメディケーションとの言葉で責任を国民に押しつける方策で、悪意すら感じ、あまりにも安易な考えと言わざるを得ない。
- ・いざというとき誰でも何処でも医療が受けられることが前提にあってこそセルフメディケーションである。
- ・セルフメディケーションというプロパガンダを使った保険診療の民営化では？
- ・セルフメディケーションの名のもとに国が担保すべき社会保障を切り捨てている。
- ・論理のすり替え、誤魔化しの政府の姿勢には憤りを感じる。
- ・イメージだけを先行させ、国民の健康を二の次にしている。まずは予算削減ありきで、それに合わせた都合のよい論理を展開しているに過ぎない。
- ・保険料の患者負担へすり替えでしかない。
- ・横文字に誤魔化されている。お金がなくては医療は受けられない世の中になる。
- ・医学的知識に乏しい一般の方々に薬の選択を症状のみや薬剤師さんのみだ判断にまかせるのは危険な場合もあると思われるため。

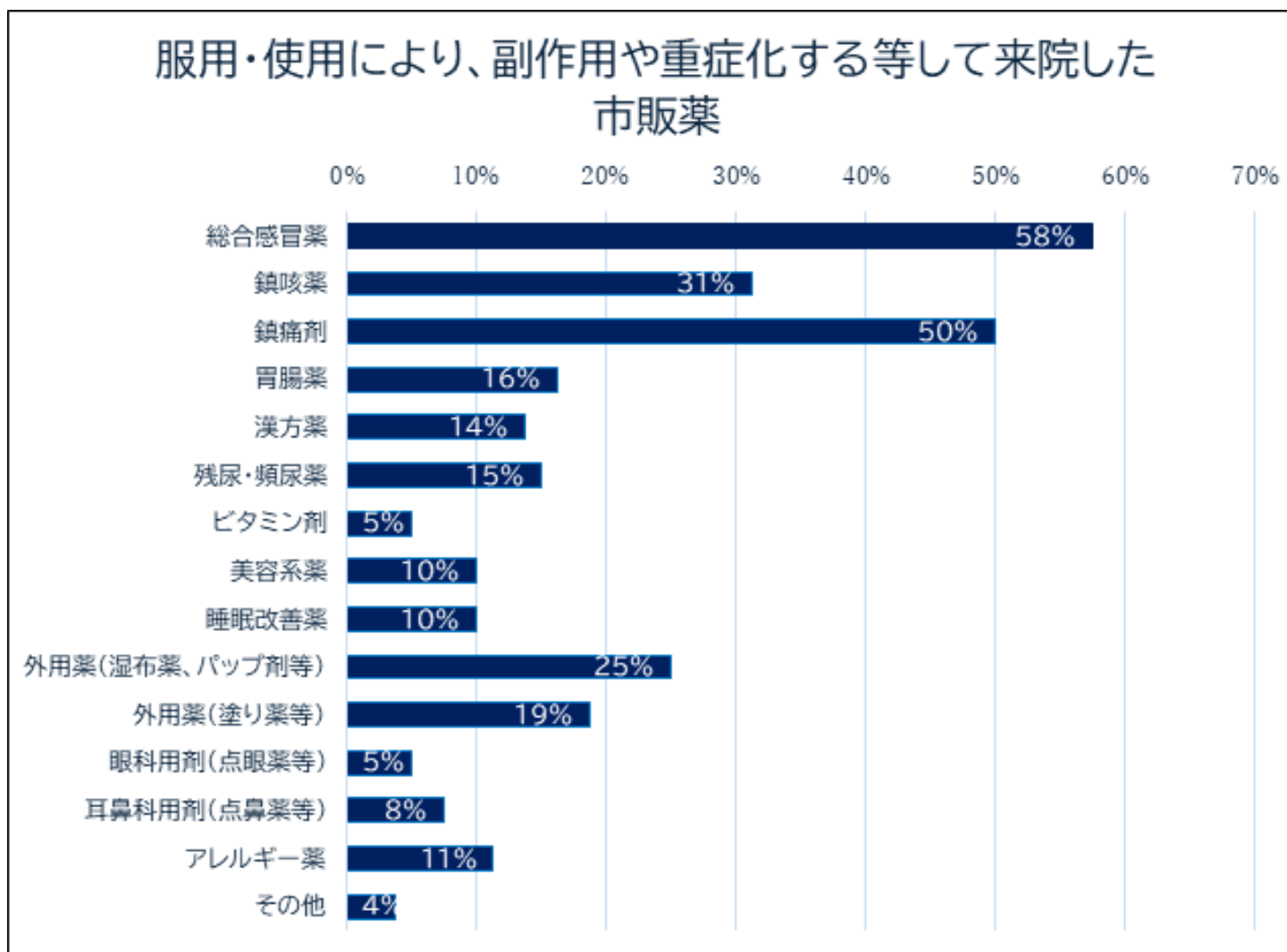
【「賛成」の理由(抜粋)】

- ・自己管理は必要。

5. OTC薬(市販薬)の服用・使用により、副作用や重症化する等して来院した患者がいるか質問したところ、「いる」が40.4%でした。



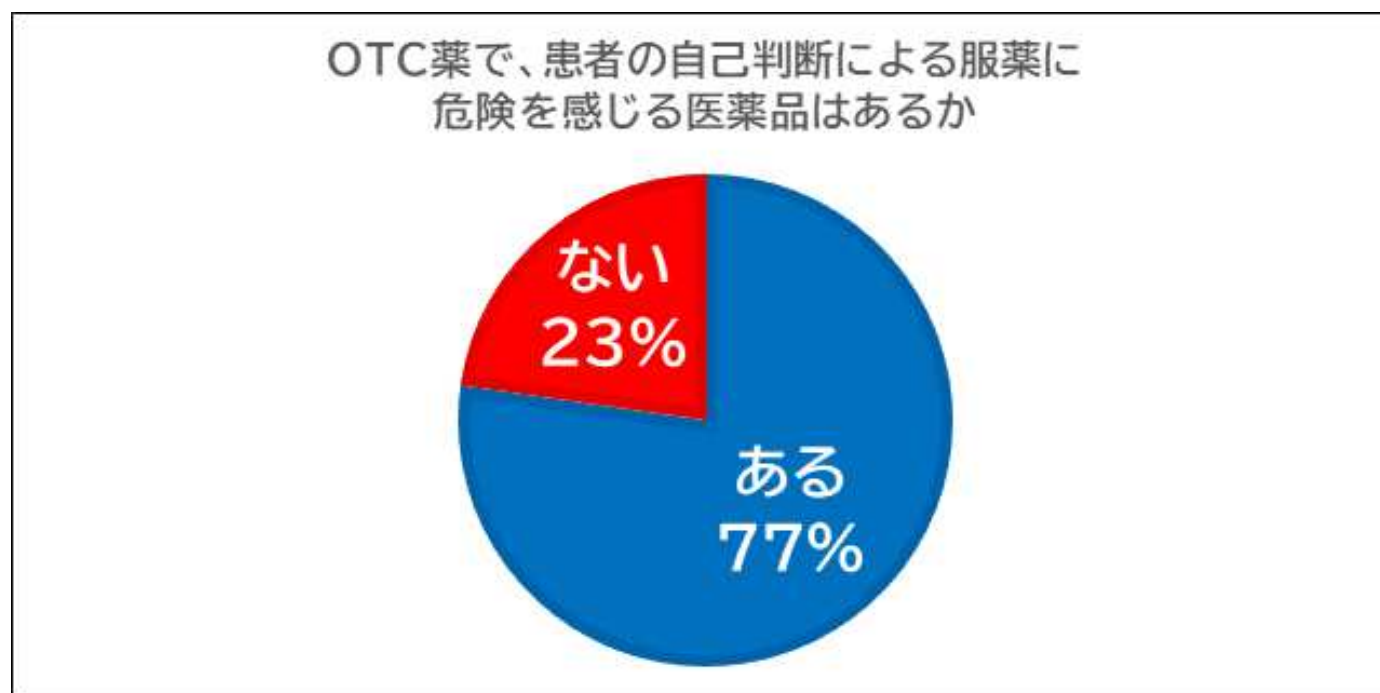
5.「いる」と回答された方に、どのような市販薬だったか、質問したところ、総合感冒薬57.5%、鎮痛剤50.0%、鎮咳薬31.3%、外用薬(湿布薬、パップ剤等)25.0%等の回答がありました。



【当該OTC薬の商品名、副作用、重症化事例について】

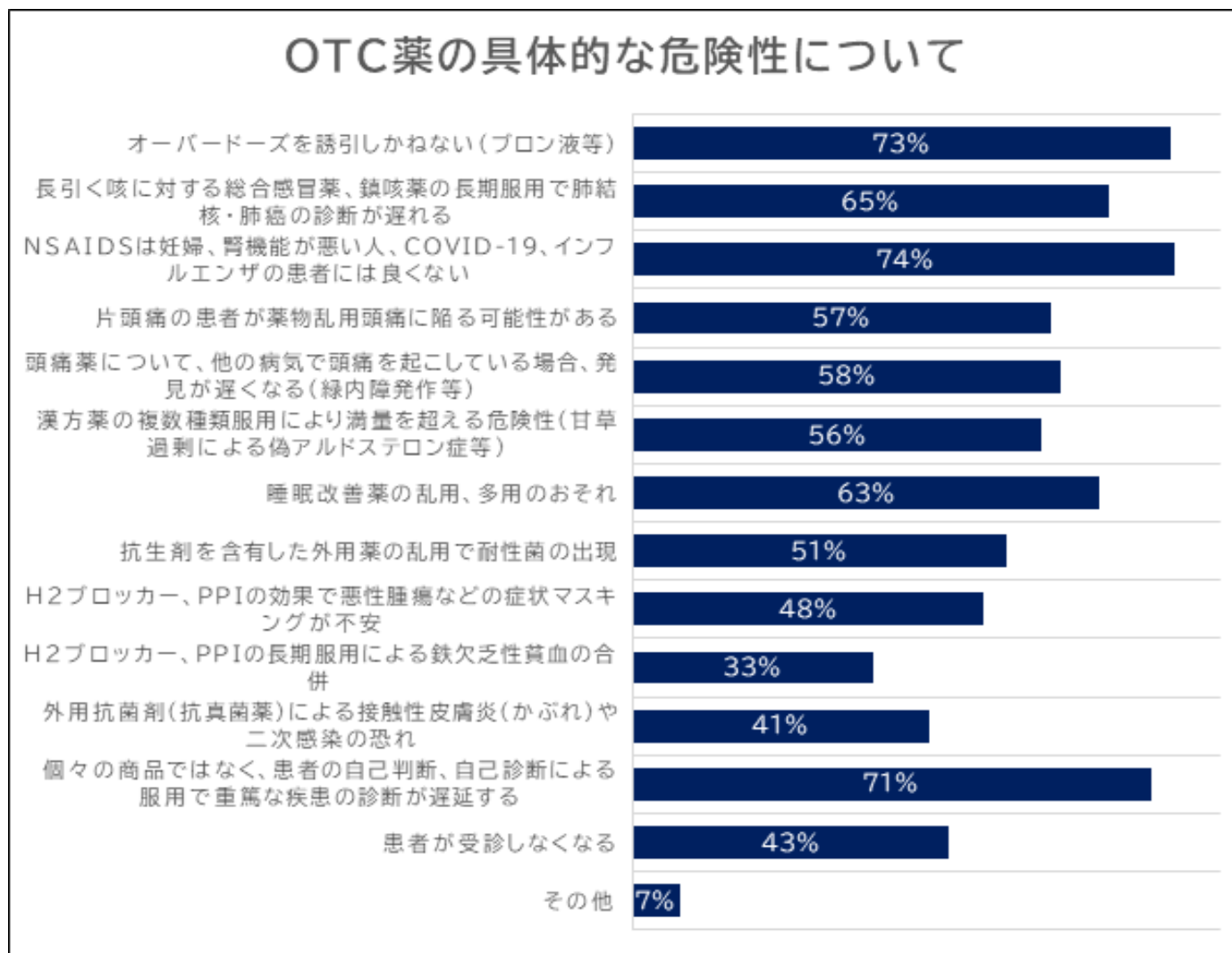
- ・風邪と自己判断して感冒薬を一週間以上服用して来院、肺炎だった。鎮痛薬で胃痛、ステロイド含む軟膏で皮膚変性。
- ・市販点鼻薬の乱用によって、症状悪化例が年50人～100人訪れる。
- ・総合感冒薬による排尿障害。／総合感冒薬で尿閉をきたした。
- ・over doseで意識消失。
- ・ロキソニン→消化管穿孔。
- ・百日咳であるにもかかわらず、鎮咳剤を長期に服用し、感染が拡大したと思われる。また溶連菌感染でありながら感冒薬を服用し、急性糸球体腎炎を発症した例が見られる。
- ・大学病院で経験した症例ですが、スティーブンス・ジョンソン症候群でした。
- ・インフルエンザ、COVID-19等での総合感冒薬服用で症状の増悪、変形性腰椎症や腰部脊柱管狭窄症での外用薬や鎮咳材のみでの症状増悪など。
- ・本人は単なる胃炎と思って薬局で胃薬を購入して内服していたが、1週間経過しても良ならず、倦怠感も出現し来院したら心筋梗塞であった。
- ・疼痛に対して湿布薬を使用したか、数日後の受診で带状疱疹と診断した例がある。
- ・品名不明：咳止め飲んで重症化に気づかず、肺炎を起こして来院、入院したが死亡。
- ・白癬にステロイド外用で悪化。

6. OTC薬(市販薬)で、患者の自己判断による服薬に危険を感じる医薬品はあるか質問したところ、「ある」が77.3%でした。
「ある」と回答した方に商品名を質問したところ、16人が「ロキソニン(ロキソプロフェン)」、6人が「NSAIDs」、5人が「メジコン」をあげました。



※「ない」と回答したが、最後の質問「OTC薬の具体的な危険性」に回答した方は「ある」に含めた。

6. また、OTC薬の具体的な危険性について質問したところ、「NSAIDsは妊婦、腎機能が悪い人、COVID-19、インフルエンザの患者には良くない」が73.9%、「オーバードーズを誘引しかねない(ブロン液等)」が73.2%、「個々の商品ではなく、患者の自己判断、自己診断による服用で重篤な疾患の診断が遅延する」が70.6%等の回答がありました。



最後に～アンケート結果を踏まえた、京都府保険医協会の要求

1. 自民党・公明党・日本維新の会の三党協議で、日本維新の会が保険給付から除外すべきとした具体的なOTC類似薬(保険薬)の28の有効成分には、日常診療で処方される薬剤が多く含まれています。除外されれば、患者の外来受診控え、負担増とともに、医療の安全を脅かすものとなります。保険給付から除外することに反対します。
2. 保険医がOTC薬(市販薬)を処方した際の技術料の選定療養化は、保険給付の縮小、患者負担の増加となり、実質的な混合診療の拡大となるため、反対します。
3. 三党合意では、2023年(令和5年)末時点で海外2か国以上でスイッチOTC化されているものの、日本ではスイッチOTC化されていない医薬品約60成分を、2026年(令和8年)末までにOTC化するとしています。OTC類似薬の保険外しを念頭に置いた検討であり、安心・安全な保険診療の確保のため、これ以上のスイッチOTC化の推進に反対します。
4. 後発医薬品を中心とした保険薬(医療用医薬品)の供給の安定化を求めます。薬価改定は2年に一度とし、流通の不安定化の原因となる、汎用保険薬の過度な薬価引き下げを行わないよう求めます。

【事務局から補足】

- ① OTC類似薬の保険外しが導入された場合、指定難病等の国の公費負担医療制度や、全国の福祉医療(子育て支援医療、ひとり親家庭医療助成、重度心身児(者)医療助成、重症老人健康管理事業)で医療費負担が軽減されている方にも、当然大きな負担となります。

公費負担医療や、ひとり親家庭支援医療、重度心身児(者)医療助成制度、重症老人健康管理事業などの制度は所得制限があることから分かるように、低所得の方が多いため、過大な負担となります。

- ② OTC類似薬の保険外しが導入された場合、低所得者層、生活保護世帯にとって、過大な負担が直撃します。

- ③ 生活保護を受けている方は選定療養が給付対象外です(以前から、差額ベッドなどは使えない)。そのため、保険医がOTC薬(市販薬)を処方した際の技術料が選定療養化された場合、保険からスイッチされ、保険から除外されたOTC薬を処方することになった段階で、受診自体が自己負担になります。あまりに影響が大きいです。受診自体を躊躇する結果となり、社会福祉の観点のみならず、公衆衛生の観点からも悪影響が想像されます。(以上)